

北海道大学と Alliance of Bioversity International and CIAT が フード・アグリ国際イノベーション拠点構築に向け MOU を締結

～日本発フード・アグリ技術の海外実証と事業化を加速～

【概要】

北海道大学と国際農業研究協議グループ(CGIAR)の一員である Alliance of Bioversity International and CIAT^{*1} (コロンビア) は、「Japan-CGIAR Food-Agri Innovation Hub」の構築に向けた共同準備に関する覚書 (MOU) を締結しました。本構想は、日本の大学、研究機関、民間企業等から生まれた食料・農業分野のスタートアップや技術を、CGIAR の研究知見、国際ネットワーク、海外の実証・実装基盤につなぎ、海外実証、現地適合化、事業化、資金調達、海外展開を一貫して支援する国際的な共創・実装プラットフォームの形成を目指すものです。

【締結に至った経緯】

気候変動、食料・栄養安全保障、農業人口の減少、天然資源の劣化などが深刻化する一方、大学や研究機関が創出した研究成果や技術の多くは、実証、事業開発、資金調達、海外展開の段階で、十分な規模への展開に至っていません。とりわけフード・アグリ分野では、気候、土壌、作物、生産システム、市場構造、制度規制が国や地域によって異なるため、技術の現地適合化と事業化に時間と投資を要します。両者は、こうした課題を乗り越えるため、北海道大学を日本側の主要拠点として、国内外の大学・研究機関、CGIAR 研究センター、企業、スタートアップ、金融機関、投資家、政府機関、農業団体等を結ぶネットワークの構築に向けた共同準備を開始します。

【連携の内容】

Japan-CGIAR Food-Agri Innovation Hub が目指す機能は、以下のとおりです。

- ・日本発の食農技術やスタートアップと CGIAR の海外研究実装拠点及び現地パートナーとの接続
- ・対象国・地域の課題やニーズを踏まえた海外実証、技術の現地適合化、事業化及び市場拡大支援
- ・民間企業、ベンチャーキャピタル、金融機関、投資家等との連携による資金調達・投資への接続
- ・学生・若手研究者等が研究から実証、社会実装、事業化までを実践的に学ぶ国際人材育成

【今後の展開】

両者は「Japan-CGIAR Food-Agri Innovation Hub 設立準備委員会 (仮称)」の設置に向けて協議し、ハブの目的・機能、組織・運営、役割分担、支援対象の選定、海外実証・事業化支援、人材育成、資金調達等の具体化を進めます。必要な合意と内部承認を前提に、2027 年中の正式設立を見据えたロードマップ案の策定を目指します。また、国内外の関係機関が参画する連携プラットフォームの構築についても検討します。

締結式

日 時 令和 8 年 9 月 25 日 (金) 16 時～17 時

場 所 北海道大学百年記念会館大会議室 (〒060-0809 札幌市北 9 条西 6 丁目)

出席者 北海道大学

實金清博 (総長)、野口 伸 (理事・副学長)、瀬戸口剛 (理事・副学長)、西邑隆徳 (副学長)、久保友彦 (大学院農学研究院長)

Alliance of Bioversity International and CIAT

マーク・ランディ^{*2} (Research Director)、石谷 学 (Principal Scientist)

お問い合わせ先

北海道大学研究推進部研究支援課総務担当 (長谷川 (はせがわ))

T E L 011-706-9563 F A X 011-706-9598 メール sousei@research.hokudai.ac.jp

配信元

北海道大学社会共創部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp

*1 CIAT … Alliance Bioversity & International Center for Tropical Agriculture (CIAT) は、CGIAR の一員として、農業、栄養、環境、生物多様性、食料システムの交差領域における学際的研究を推進している。本構想のハブでは、統合された運営モデルの下で活動するパートナーシップとなる。

*2 マーク・ランディ … マーク・ランディ氏は札幌農学校初代教頭クラーク博士の玄孫にあたる。